

新城高等女学校動員学徒の8月7日

新城高等女学校（現新城高校）では昭和19（1944）年4月に約100名の4年生女子学徒が豊川海軍工廠に動員されました。彼女らは総務部や会計部に配属されましたが、両部は空襲の被害が激しかった正門附近に位置し、22名もの尊い命が失われました。空襲時の彼女らの状況が、昭和28（1953）年の『婦人倶楽部 秋の増刊号』に「豊川海軍工廠の姫百合 乙女部隊死の記録」として紹介されています。その中で、愛する娘を失った遺族から「生徒が死んで引率の先生が生き残っているとはどういう意味か」と責められた教員の、「ぼくは生きているのがいやになった。なぜ、あの時死ななかつたのかと・・・」という苦悩に満ちた心境も記されています。

新城高校同窓会歴史資料館に保管されている新城高等女学校の空襲犠牲者の写真帳には、戦没状況として「爆風圧死」「頭部爆失」「全身爆失」「痕跡ヲ留メズ」「壕内圧死」などと記されており、空襲がいかに激しく悲惨な状況であったかを知らされます。